

# がん「光免疫療法」研究所開設

関西医科大学  
所長に小林氏



光を当ててがん細胞を壊す  
「光免疫療法」の研究所を、

関西医科大学（大阪府枚方市）が4月に開設した。所長には、この治療法の開発者で、小林久隆・米国立保健研究所（NIH）主任研究員（兼務）がいった。

光免疫療法は、特定のがん細胞にくっつく抗体と、近赤外光を当てると反応する化学物質を結合させ、薬として使う。光を当てると、光に反応した薬ががん細胞を壊す。壊れた細胞から、がん特有の物質が飛び出し、免疫細胞に取り込まれる。免疫も活性化され、残っているがんを攻撃する。がん細胞だけねらえるた

め、正常な細胞を傷つけず、副作用が少ない利点がある。

光免疫療法は、手術、抗がん剤、放射線、免疫療法に続き、第5のがん治療法ともいわれる。世界に先駆けて従来の治療が効かない頭頸部がんを対象に2020年に承認された。

安全性は確認されたが、完治率を高めるには、がん細胞が壊れてから体内で起る現象や、免疫の仕組みの解明が欠かせない。

新しく設置された光免疫医学研究所には約30人の研究者が集まる予定だ。関西医科大学は昨年から光免疫療法センターを設けて治療も行っており、連携していく。小林さんは「最終的なゴールは多くの患者さんが治ることだ」と話す。治療対象とするがんの種類も増やしていき、8割のがんでこの治療法が使えるようにしたいという。（瀬川茂子）